

移行期の教育活動

～入学前教育・リメディアル教育・初年次教育～

大学への入学が決定した後から大学1年生の間に大学では、入学前教育、リメディアル教育、初年次教育と、大学の学びへの円滑な移行を支援する取り組みが行われている。各実施率は、入学前教育が73.1%、入学後のリメディアル教育が43.9%であり、両方実施している大学が36.2*である。初年次教育は89.6%と、ほとんどの大学で実施されている（図4-2、図4-12、図4-16）。

入学前教育・初年次教育のねらいと効果

入学前教育と初年次教育についてそのねらいと効果をたずねた。入学前教育は「入学までの学習習慣の維持」76.3%（推薦・AO入試合格者への入学前教育実施学科に占める割合）が最も高く、次いで「高校までの基礎学力の補強・向上」が68.0%と高い（図4-4）。多くの学科でリメディアル教育としての役割も担っていることがわかる。特に「理工」系統の学科では、86.5%が「基礎学力の補強・向上」をねらいとしている（図4-5）。一方、初年次教育については、「大学生活への円滑な移行の支援」89.6%（初年次教育実施学科に占める割合）、「大学での学びへの動機づけ」が82.4%と高くなっているが、多くの項目で選択率が高く、様々なねらいをもって実施されている（図4-17）。

前出の入学前教育の2つのねらいに対する効果をみると、いずれも「効果が得られている」（「十分に効果が得られている」＋「ほぼ効果が得られている」）が5割弱、「わからない」との回答も2割弱ある（図4-4）。「わからない」の回答が多いのは、「入学前教育の成果と課題の検討」が5割弱でしか実施されていないことにもよるだろう（図4-8）。一方、初年次教育については、いずれのねらいに対しても「効果が得られている」が半数を超え、「大学生活への円滑な移行の支援」については92.9%が「効果が得られている」と回答している（図4-17）。全般にうまくいっているところが多いようである。

リメディアル教育の実施状況

リメディアル教育の実施率が高いのは、「理工」（59.1%）、「農水産」（51.8%）、「医・薬・保健」（48.9%）といった理系の学科である（図4-12）。これらのうち、サンプル数の多い「理工」「医・薬・保健」について実施教科をみていくと、「理工」で実施率の最も高い教科・科目が「数学」、「医・薬・保健」は「生物」である（図4-15）。入学前教育の実施状況も同様にこれらの教科が高い（図4-7）。

一方、大学に、高校生のうちに学んでおく必要性のある教科をたずねた結果をみると、「かなりの程度学んでおく必要がある」との回答率が高いのも、「理工」は「数学」86.2%、「医・薬・保健」で「生物」58.9%であった（図2-5）。これらの教科はそれぞれの専門分野を学ぶ基礎となる重要な教科であることがわかる。このような理系の教科の補習が特に必要となっている背景には、積み上げ型の教科の特性や高校での理科の履修状況の違いなど理系特有の事情もあるが、「医・薬・保健」の「生物」は、今回の結果にもあるように、入学者の受験割合が少ないことも一因であろう（図2-5）。

また、大学入学者選抜の課題に目を転じると、「学力が足りない学生も合格させざるを得ない」との回答が47.9%（「とてもそう」＋「まあそう」の%、以下同）、「志願者数確保のため、入試科目を減らさざるを得ない」も24.0%と4分の1の学科が肯定している（図2-3）。このような状況がある限り、リメディアル教育が減ることはないだろう。今後さらに、大学が高校卒業者のみならず、留学生や社会人の受け入れを拡大していくのであれば、そうした多様な学習歴をもつ入学者に対応する意味でも、リメディアル教育の重要性は一層増していくものと思われる。

（ベネッセ教育総合研究所 研究員 吉本真代）

* 報告書中に図示はしていない。

4-1. 入学前教育の実施状況

入学前教育として最も多く実施されているのは、添削付きの学習課題の提出。

入学前教育の実施の有無を、入学予定者の入試方法別にたずねたところ、推薦入試による入学者に対しては全体の63.7%、AO入試による入学者に対しては全体の44.0%が実施している(図4-1)。これをそれぞれその入試方法の実施学科に占める割合でみると、推薦入試実施学科の69.6%、AO入試実施学科の79.4%が入学前教育を実施している。次に、それらの回答から、いずれかの対象に対して1つでも入学前教育を実施している割合を算出すると、73.1%であった(図4-2)。

推薦入試またはAO入試による入学者向けに入学前教育を実施している学科(1,402学科)に対して、実施内容をたずねた結果が図4-3である。最も多かったのが「学習課題の提出(添削あり)」(61.9%)であった。さらに、その受講が必須か否かについては、65.0%で全員に必須として課している。

Q 貴学科では、どのような学生を対象にして入学前教育を実施していますか。

図4-1 入学前教育の対象者別実施率(全体) **大学**

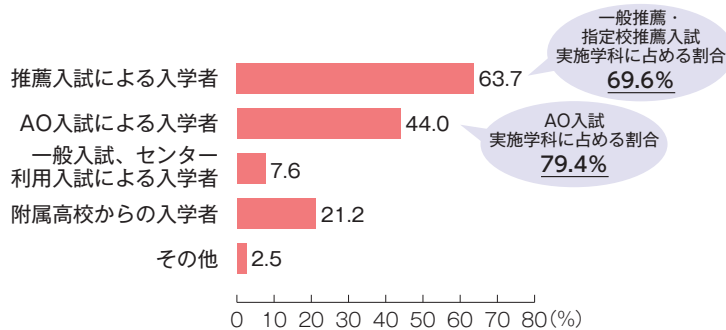
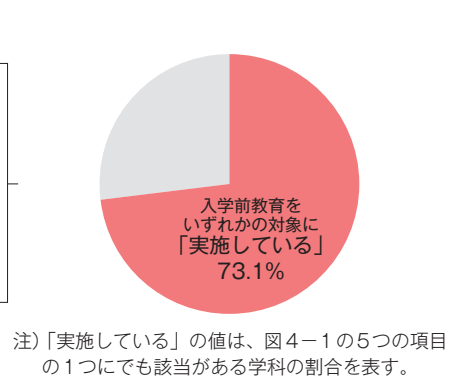


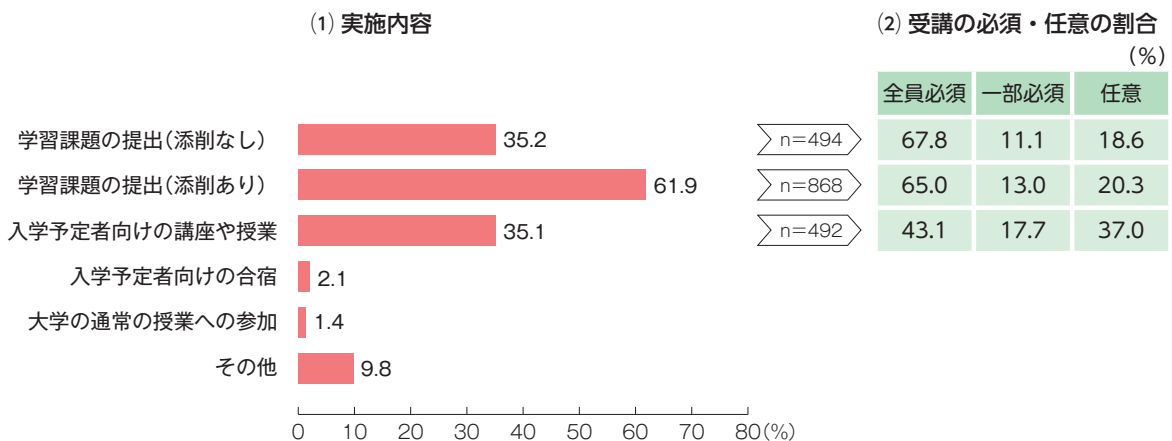
図4-2 入学前教育の実施率(全体) **大学**



Q 前問で「推薦入試による入学者」または「AO入試による入学者」に○をつけた方にお聞きます。推薦入試、AO入試による早期合格者に対して、貴学科ではどのような入学前教育のプログラムを実施していますか。

- 1) 実施しているものすべてにチェックをつけてください。
- 2) また、実施していると答えたプログラムについては、合格者全員が必須かどうかもお答えください。

図4-3 入学前教育の実施内容(入学前教育実施学科のみ) **大学**



4-2. 入学前教育のねらい

「入学までの学習習慣の維持」が76.3%、「高校までの基礎学力の補強・向上」が68.0%。

入学前教育のねらいとして最も高かったのは「入学までの学習習慣の維持」(76.3%)、次いで「高校までの基礎学力の補強・向上」(68.0%)、「大学での学びへの動機づけ」(60.3%)と続く(図4-4)。これを4つの学科系統別にみると、「学習習慣の維持」はどの学科系統でも7割を超えている。それに対して「高校までの基礎学力の補強・向上」は、「理工」「医・薬・保健」で高く、「大学での学びへの動機づけ」は「人文科学」「社会科学」で高くなっている(図4-5)。

次に、それぞれのねらいに対する効果を見ると、「大学での学びへの動機づけ」は60.3%が「効果が得られている」(「十分に効果が得られている」+「ほぼ効果が得られている」、以下同)と感じており、「学習習慣の維持」や「基礎学力の補強・向上」もそれぞれ47.2%、43.9%が効果を感じている(図4-4)。

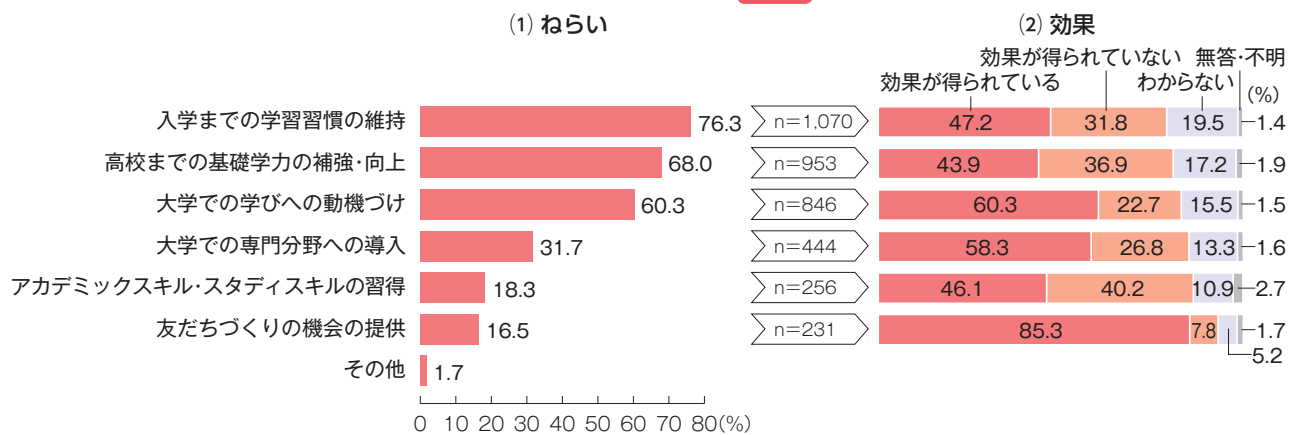
Q

貴学科の入学前教育では、

(1) どのようなことをねらいとしていますか。

(2) ねらいとして選択したものについて、どの程度効果が得られていると思いますか

図4-4 入学前教育のねらいと効果(入学前教育実施学科) **大学**

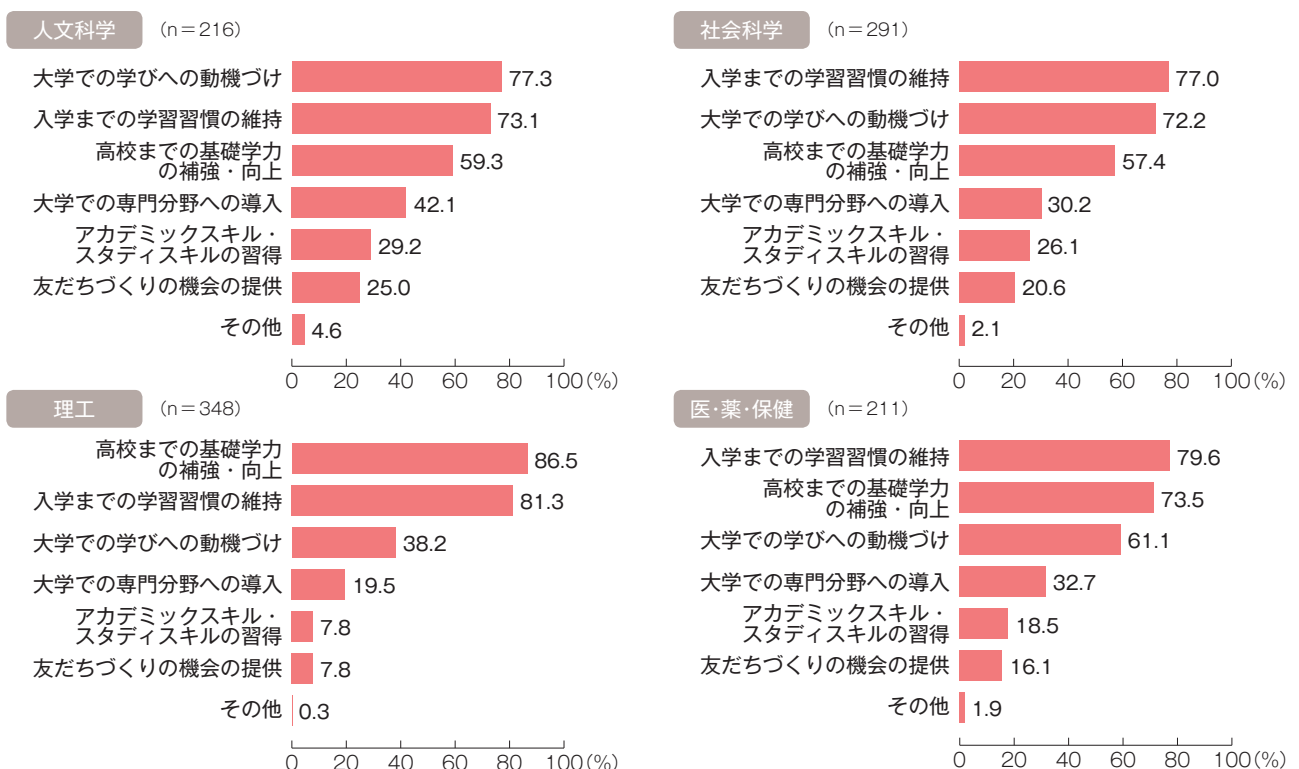


注1) 「(1)ねらい」は、複数回答。注2) 「(1)ねらい」の対象は、推薦入試またはAO入試による入学者に入学前教育を実施している学科1,402件。

注3) □は「(2)効果」の質問のそれぞれの対象人数を表す。

注4) 「効果が得られている」は「十分に効果が得られている」+「ほぼ効果が得られている」%、「効果が得られていない」は「あまり効果が得られていない」+「ほとんど効果が得られていない」%を表す。

図4-5 入学前教育のねらい(入学前教育実施学科の学科系統別) **大学**



注) 対象は、推薦入試またはAO入試による入学者に入学前教育を実施している学科。()内はサンプル数。

4-3. 入学前教育を実施している科目

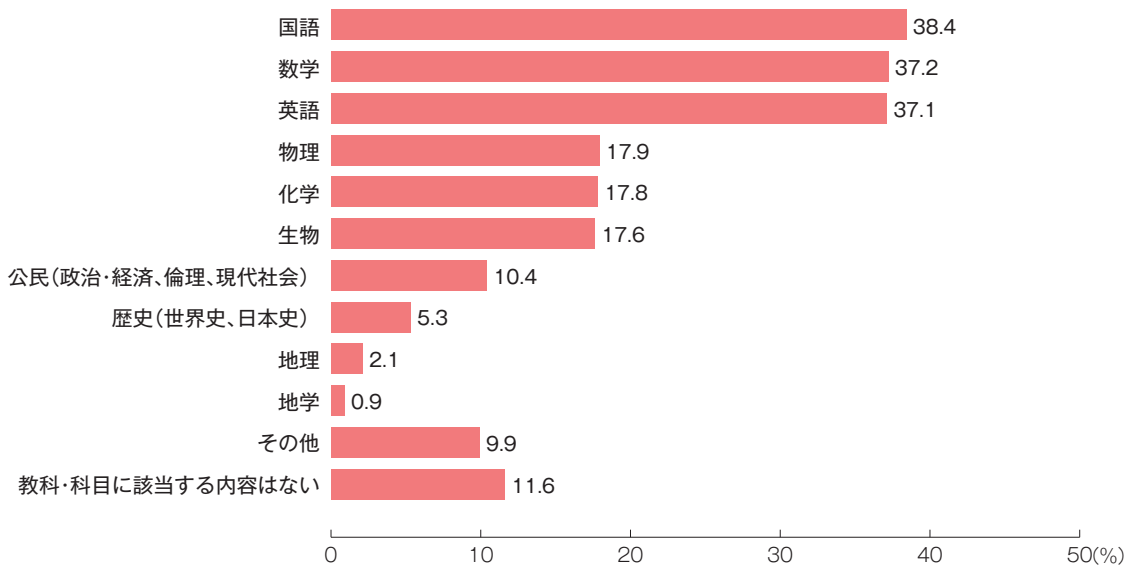
入学前教育の実施率が高い教科は、人文・社会科学では「国語」、理工で「数学」、「医・薬・保健」系統で「生物」。

入学前教育の内容を高校の教科・科目でみると、多いのが「国語」「数学」「英語」の順でいずれも4割弱の実施率である。これを学科系統別にみると、「理工」で「数学」が82.5%と顕著に高く、「医・薬・保健」では「生物」が57.8%と高い。「人文科学」「社会科学」では「国語」が55%程度で最も高くなっている。

Q

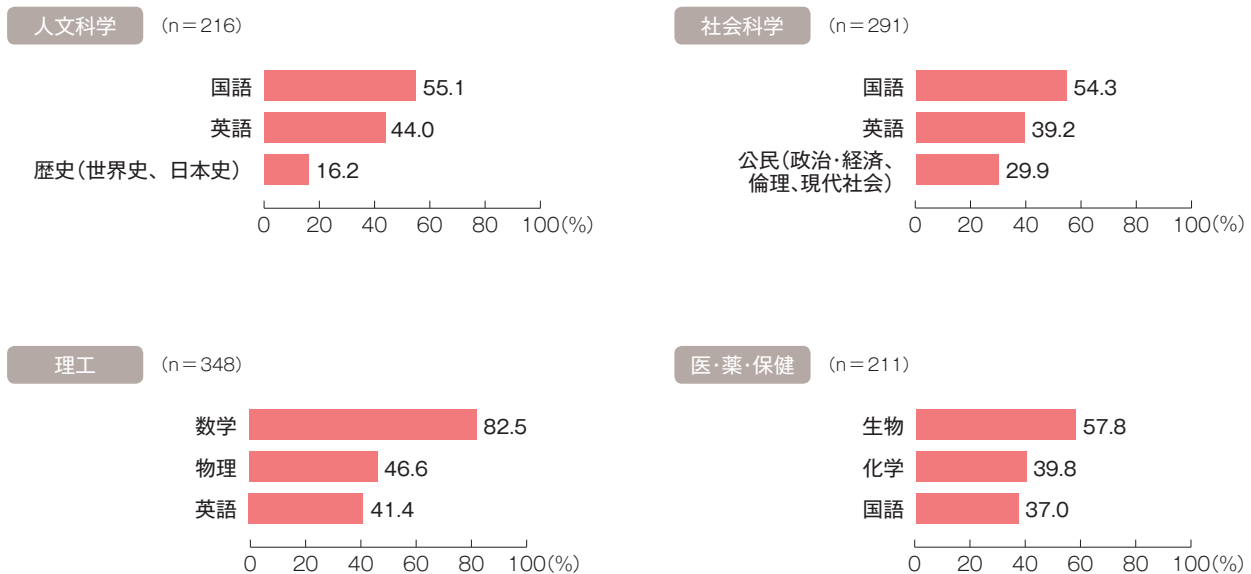
貴学科で入学前教育を実施している科目は、高校の教科・科目でいうとどれにあたりますか。

図4-6 入学前教育を実施している教科・科目(入学前教育実施学科) **大学**



注1) 複数回答。 注2) 対象は、推薦入試またはAO入試による入学者に入学前教育を実施している学科1,402件。

図4-7 入学前教育を実施している教科・科目(入学前教育実施学科の学科系統別) **大学**



注) 学科系統別の集計は、該当サンプル数の多い4学科系統のみとし、その他は省略している。

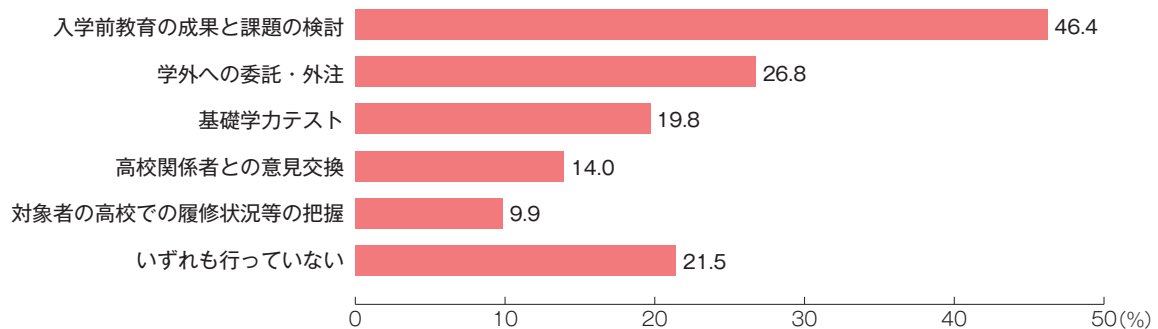
4-4. 入学前教育の実施状況

「入学前教育の成果と課題の検討」を実施しているのは約半数。

入学前教育の実施にあたっては「高校関係者との意見交換」14.0%、「対象者の高校での履修状況等の把握」9.9%と、高校との情報交換はあまり行われていない。

Q 貴学科では、入学前教育の検討・実施にあたって、次のようなことを行っていますか。

図4-8 入学前教育の検討・実施にあたって行っていること(入学前教育実施学科) **大学**



注1) 複数回答。注2) 対象は、推薦入試またはAO入試による入学者への入学前教育を実施している学科1,402件。

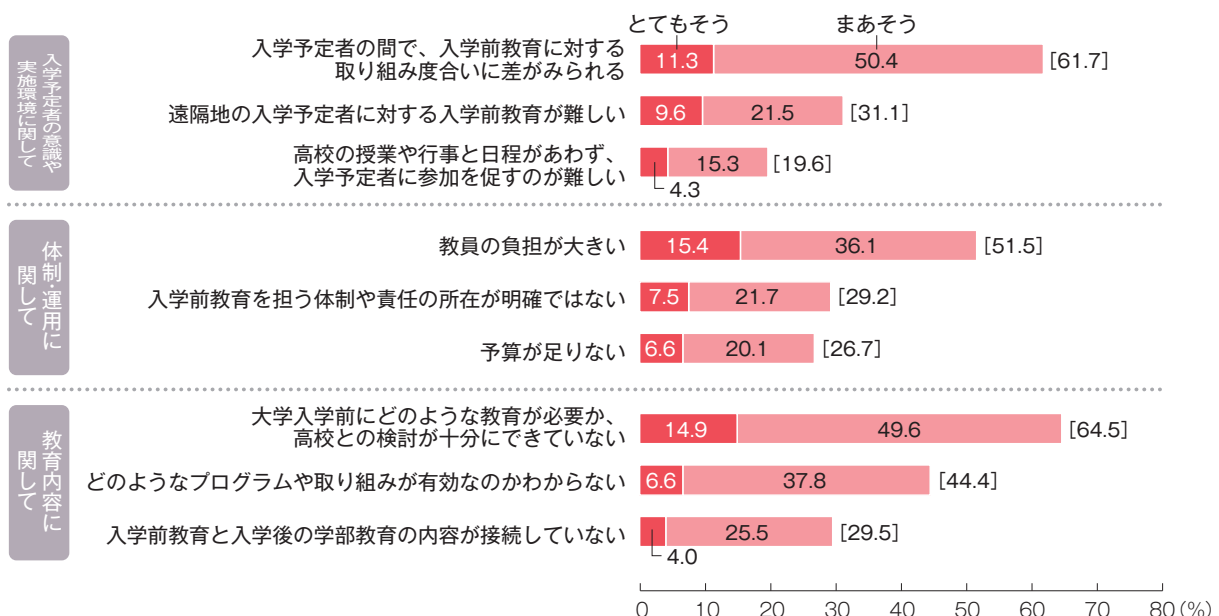
4-5. 入学前教育の課題

「大学入学前にどのような教育が必要か、高校との検討が十分にできていない」が64.5%。

入学前教育の課題として掲げた項目のうち肯定割合が半数を超えたのは、「大学入学前にどのような教育が必要か、高校との検討が十分にできていない」64.5%（「とてもそう」+「まあそう」、以下同）、「入学予定者の中で、入学前教育に対する取り組み度合いに差がみられる」61.7%、「教員の負担が大きい」51.5%の3つの項目であった。

Q 貴学科での入学前教育について、どのようなことを課題に感じていますか。

図4-9 入学前教育の課題(入学前教育実施学科) **大学**



注1) 対象は、推薦入試またはAO入試による入学者への入学前教育を実施している学科1,402件。

注2) []内の値は、「とてもそう」+「まあそう」の%。

注3) 選択肢は、「とてもそう」「まあそう」「あまりそうでない」「まったくそうでない」の4段階。

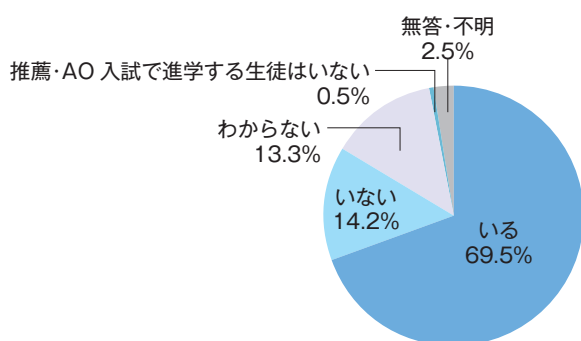
4-6. 入学前教育の高校からの評価

入学前教育を受けている生徒のいる高校の8割で「大学にはもっと入学前教育を充実させてほしい」と感じている。

高校に対して、推薦・AO入試による早期大学合格者のうち、合格した大学が提供する入学前教育を受けている生徒の有無についてたずねたところ、7割が「いる」と回答している(図4-10)。続いて、「いる」との回答校に対し、入学前教育に対する意識をたずねた結果が図4-11である。「入学前教育を受けた生徒の学習意欲が上がる」に「そう思う」(「とてもそう思う」+「まあそう思う」、以下同)との回答が83.0%、「大学にはもっと入学前教育を充実させてほしい」も81.7%と高く、「とてもそう思う」だけでも29.7%と高い値となっている。一方で、「対応する高校教員の負担が大きい」と感じている高校も23%存在する。

Q 貴校には、推薦・AO入試で早期に進学先が決まった3年生の中で、合格した大学が提供する入学前教育を受けている生徒がいますか。

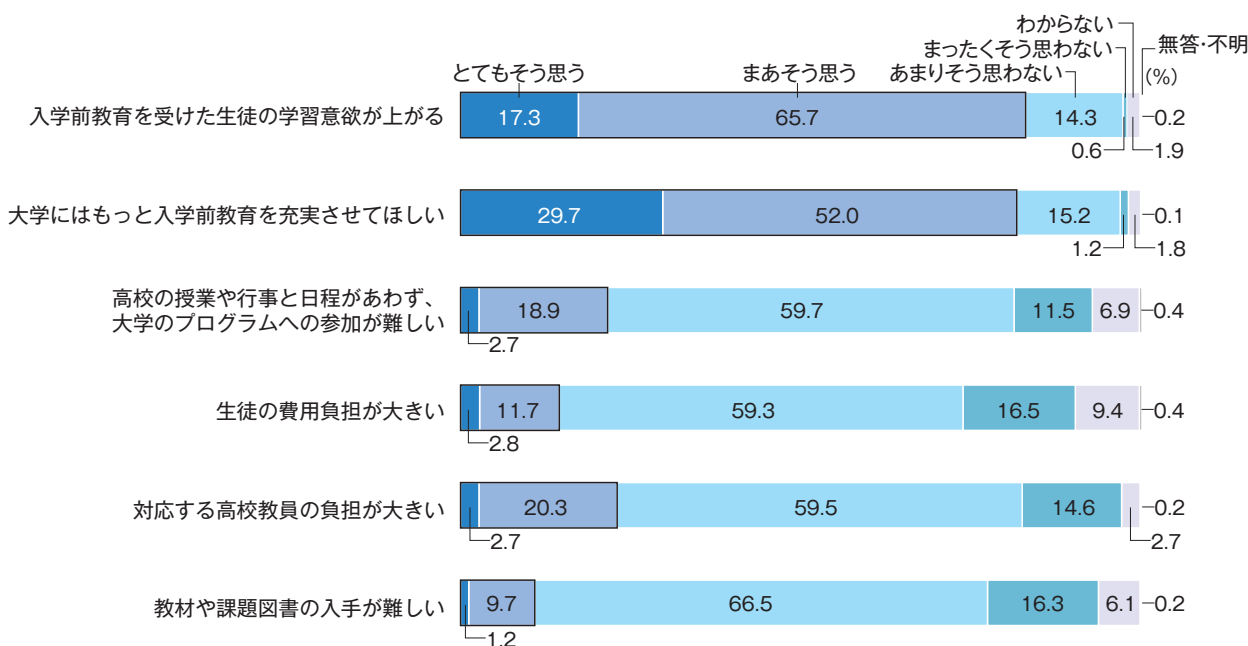
図4-10 入学前教育を受けている生徒のいる高校(全体) **高校**



注) 全体(n = 1,228)に占める割合を算出している。

Q (前問で「いる」を選んだ方にお聞きます。貴校の生徒が受けている大学の「入学前教育」について、どのように思っていますか。

図4-11 入学前教育に対する意識(入学前教育を受けている生徒の「いる」高校) **高校**



注) 対象は、入学前教育を受けている生徒が「いる」と回答した854件。

4-7. リメディアル教育の実施状況

理工系学科でリメディアル教育の実施率が6割。

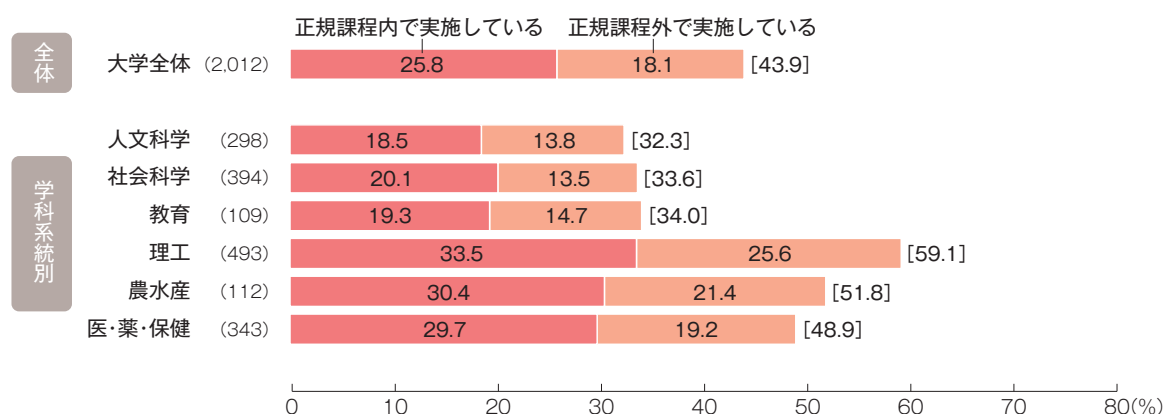
入学後のリメディアル教育については、実施率が大学全体の43.9%、そのうち「正規課程内」での実施が25.8%、「正規課程外」が18.1%である。学科系統別では「理工」が6割と高い(図4-12)。

次に、実施大学に対して、リメディアル教育の現状と課題についてたずねた結果が図4-13である。6割弱の学科で、「リメディアル教育に対する学生の意欲が低い」(58.2%)、「実施のためのスタッフが十分にいない」(57.0%)といった課題を感じている。

Q 貴学科では、リメディアル教育を実施していますか。

図4-12 リメディアル教育の実施率(全体・学科系統別)

大学

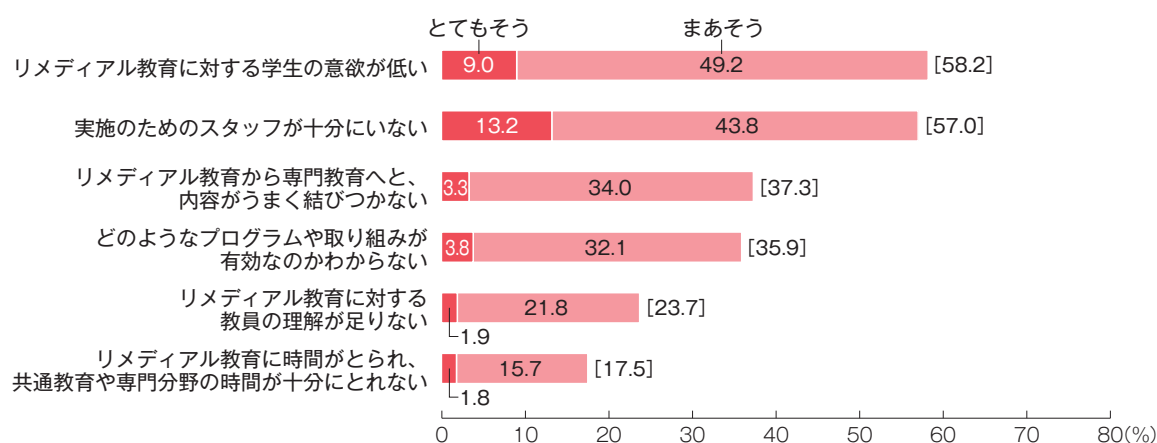


注) []内の値は、「正規課程内で実施している」+「正規課程外で実施している」の%。

Q 貴学科のリメディアル教育における現状あるいは課題についてお聞きます。それぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

図4-13 リメディアル教育の現状と課題(リメディアル教育実施学科)

大学



注1) 対象は、リメディアル教育を「正規課程内で実施している」「正規課程外で実施している」と回答した885件。

注2) []内の値は、「とてもそう」+「まあそう」の%。

注3) 選択肢は、「とてもそう」「まあそう」「あまりそうでない」「まったくそうでない」の4段階。

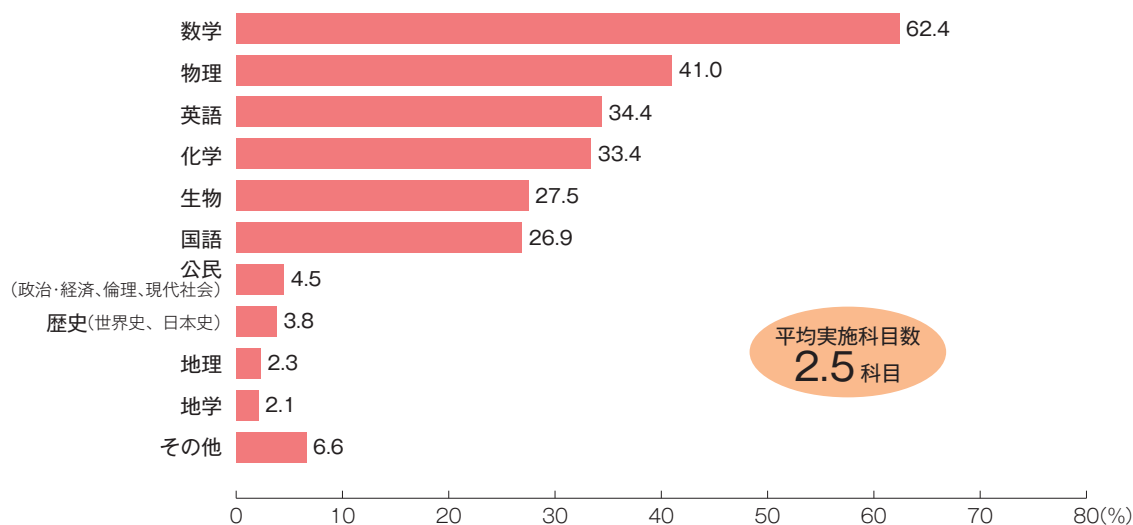
リメディアル教育の実施率の高い教科は「数学」

リメディアル教育を実施しているのは、高校の教科・科目でいうと全体では「数学」が最も多く62.4%、次いで物理41.0%と続く。これを4つの学科系統別にみると、「数学」が高いのは「理工」と「社会科学」で、「理工」では85.9%におよぶ。「医・薬・保健」では、「生物」が72.0%と最も高い。また、「医・薬・保健」では4学科系統の中で平均実施科目数が最も多くなっている。

Q

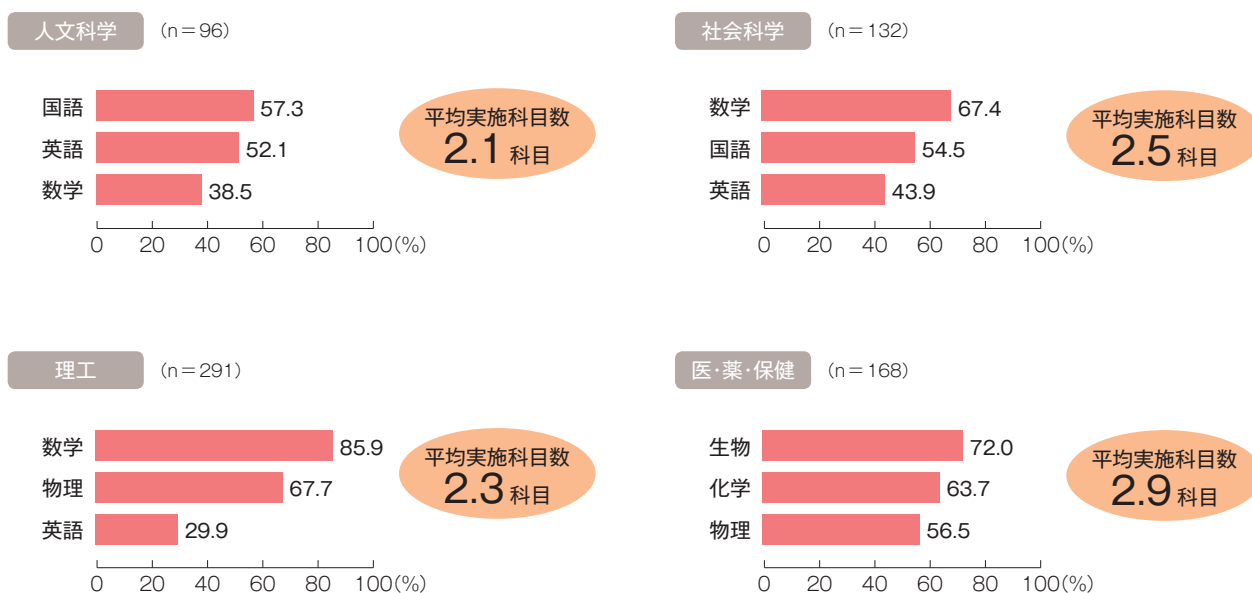
以下のうち、貴学科でリメディアル教育を実施している科目は、高校の教科・科目でいうとどれにあたりますか。

図4-14 リメディアル教育の実施教科(リメディアル教育実施学科) **大学**



注1) 複数回答。 注2) 対象は、リメディアル教育を「正規課程内で実施している」「正規課程外で実施している」と回答した885件。

図4-15 リメディアル教育の実施教科(リメディアル教育実施学科の学科系統別) **大学**



注1) 平均実施科目数は、リメディアル教育の実施教科・科目として掲げた11科目(「その他」含む)のうちの選択数の平均値。
注2) 学科系統別の集計は該当サンプル数の多い4学科系統のみとし、その他は省略している。

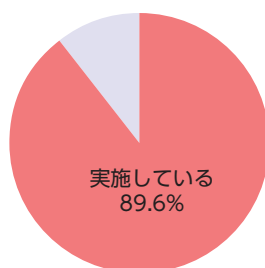
4-8. 初年次教育の実施状況

初年次教育は様々なねらいをもって、9割の学科で実施されている。

初年次教育の実施率は89.6%でほとんどの大学で実施されている。初年次教育のねらいとして、「大学生活への円滑な移行の支援(オリエンテーション、履修指導、自校教育など)」(89.6%)、「大学での学びへの動機づけ」(82.4%)が8割を超え、次いで「コミュニケーションスキルの育成」(71.8%)、「専門分野への導入」(70.2%)が高くなっている。各ねらいに対して効果をたずねた結果では、いずれの項目でも「効果が得られている」(「十分に効果が得られている」+「ほぼ効果が得られている」、以下同)が半数を超え、「大学生活への円滑な移行の支援」は92.9%に達している。

Q 貴学科では、初年次教育を実施していますか。

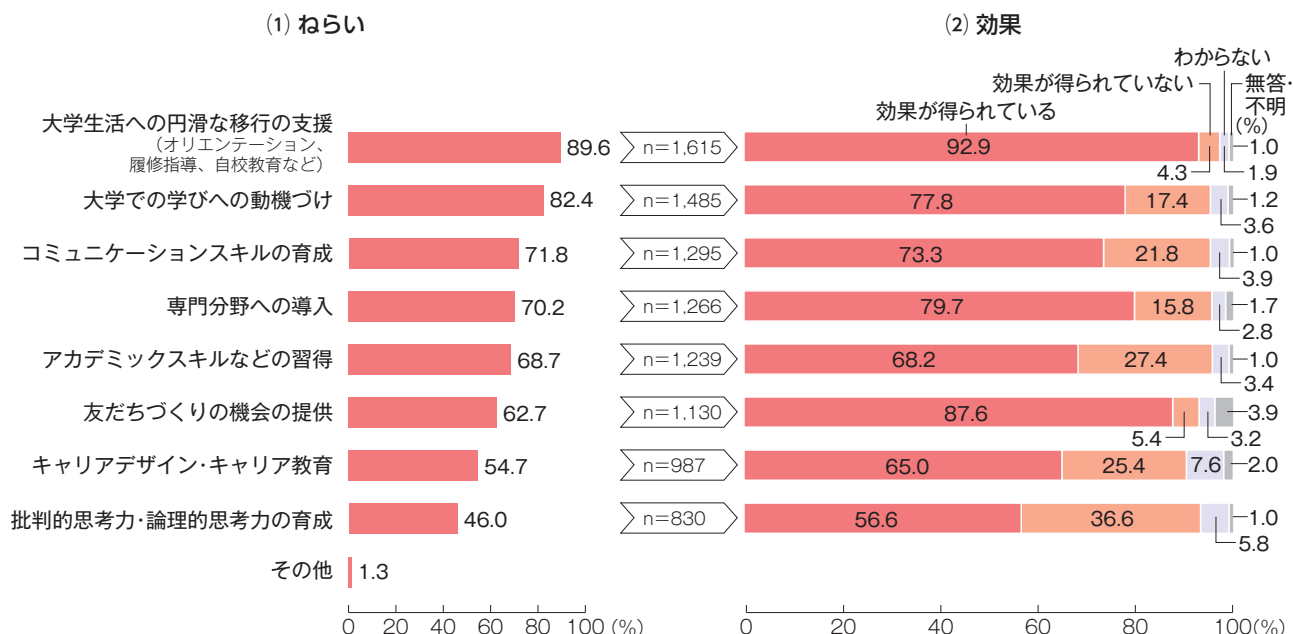
図4-16 初年次教育の実施率(全体) **大学**



注) 対象は、全体の2,012件。

Q 貴学科では1年次に、初年次教育として
(1)どのようなことをねらいとしていますか。
(2)ねらいとして選択したものについて、どの程度効果が得られていると思いますか。

図4-17 初年次教育のねらいと効果(初年次教育実施学科) **大学**



注1) 「(1)ねらい」は、複数回答。

注2) 「(1)ねらい」の対象は、初年次教育を「実施している」と回答した1,803件。

注3) ◻は「(2)効果」の質問の対象人数を表す。

注4) 「効果が得られている」は「十分に効果が得られている」+「ほぼ効果が得られている」の%、「効果が得られていない」は「あまり効果が得られていない」+「ほとんど効果が得られていない」の%を表す。

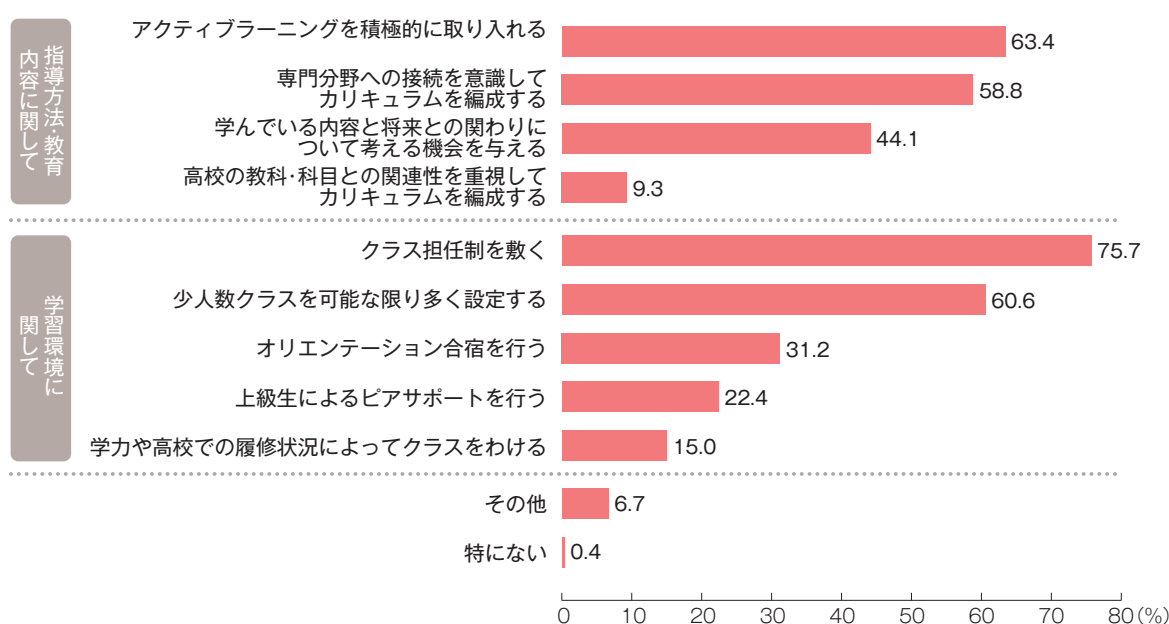
初年次教育実施学科の6割でアクティブラーニングを積極的に取り入れている。

初年次教育の実施にあたり、指導方法や教育内容に関して、「アクティブラーニングを積極的に取り入れる」(63.4%)、「専門分野への接続を意識してカリキュラムを編成する」(58.8%)は、半数を超えて実施されている。学習環境に関しては、「クラス担任制を敷く」(75.7%)、「少人数クラスを可能な限り多く設定する」(60.6%)が多くの学科で実施されている(図4-18)。

初年次教育の課題としては、「教員間で初年次教育における指導力にばらつきがある」(51.1%)、「実施のためのスタッフが十分にいない」(48.8%)といった「人」に関することがらが相対的に高い(図4-19)。

Q 貴学科の、初年次教育では、1年生の大学での学習・生活への円滑な導入を促し、効果を高めるために、どのような工夫をしていますか。

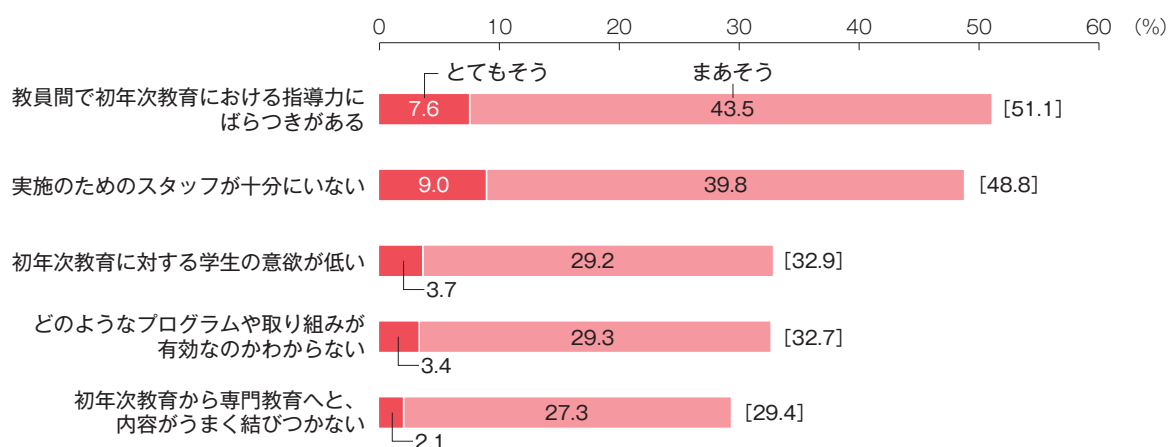
図4-18 初年次教育実施上の工夫(初年次教育実施学科) **大学**



注1) 複数回答。 注2) 対象は、初年次教育を「実施している」と回答した1,803件。

Q 貴学科の初年次教育における現状あるいは課題についてお聞きます。

図4-19 初年次教育の現状と課題(初年次教育実施学科) **大学**



注) 対象は、初年次教育を「実施している」と回答した1,803件。